

富山県総合計画審議会総合部会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年2月8日（水）9：45～11：45
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員12名、専門委員4名、三部会部会長（副部会長）3名
計19名
- 4 主な意見

総合

- 中学生や高校生にも県の総合計画をPRしてほしい。若いときから富山県の素晴らしさを理解する一助にもなるので、浸透してもらいたい。
- 「いじめ自殺ゼロプロジェクト」のような具体的なプロジェクト名とスローガンなどの目標を掲げてはどうか。
- 地域の産業の活性化に金融機関が占める割合は非常に大きいので、新たな総合計画にも県内の金融機関の意見や協力を仰ぐ必要があるのではないかと。
- 県西部地域の扇の要は高岡市だと思うが、周辺地域や市町村との感情的な問題はスムーズにいかないのでは、県としても融和を推進してもらいたい。
- 国際情勢は急速に変わるので、新たな総合計画も状況に応じて変えるという覚悟を持ってほしい。

活力

- 今後担い手不足が避けられない時代になることから、AI技術に頼る分野と人がやる分野のすみ分けが必要となる。
- ものづくりは富山県の強みなので、ロボット技術ではできない伝統工芸などにも力を入れるなど、県でも若手の育成に注力してほしい。
- 富山県が生み出す総付加価値を高めるためには、労働生産性を高めるしかない。そのためには富山県の産業構造の変換が課題である。中規模企業への統合の後押しや下請けから脱却し、消費財としてのブランド化を推進できるような構造にもっていくべきである。
- 新しい仕事、おもしろい仕事、付加価値が高い仕事が富山県でたくさんあるということにならないと、若い人を引き付けることにはならないのかなと思っている。
- 大学生を対象にして実施している工場見学では学生の食いつきがいい。富山県の魅力の周知徹底、PRに力点を置くことが必要である。
- 外国人観光客の県内移動をどうするか。公共交通の充実なども考えてもらいたい。

未来

- 日本語をきちんとやることはもちろん大事だが、英語などの外国語の特区みたいなものを作って県全体で盛り上げるような仕組みになればいいと思う。
- 人口減少問題に関して、地方同士で人の取り合うゼロサムゲームをしているのは仕方がないので、日本全体で人口を増やすという視点が必要
- 生涯スポーツや健康寿命の取組みなどによって、地域の医療費がどれだけ削減されたかなどの具体的な数字を出すことはできないか。
- レジ袋の時のように、各女性団体がお互いの隙間を埋めるような活動を行い成功した例もあるので、行政から言われてやるのではなく、県民の側から活動を起こしていくことが必要
- それぞれの地域が足りないものを補い合う、あるいは魅力をアピールしながら共生

する仕組みづくりが必要ではないか。

安心

- 高齢者が増える中で、医療における地域連携の細かな心配り（退院後の転院、在宅などの連携や見守りなど）をさらに充実させる必要がある。
- 高齢者の運転技術の向上といった部分をより条例等でしっかり整備していくことも必要
- 食品ロスに関して、最近では立食パーティーの中でお食事タイムというのをとっているところもある。そういう声かけがすごく重要で、食品ロスの廃棄の減少にもつながるのではないか。
- 高齢者の防災訓練に関して、出てきてくださいねと呼びかけをしているところはすごく参加率が高いが、何もしないで回覧板だけで集まっているところは、非常に出席率が悪いので、みんなで声かけをしていかなければいけないと感じている。
- 観光客が来て、バスでも電車でも30分に1本とか1時間に1本という現状を見ると、観光に来るのはよいが、将来富山に入ってこようという気になるかといったら、そうではないのではないか。例えば、タクシーをうまく使うとか、何か考えて動かしてもらおうと、また一つ魅力としてつながるのではないか。

人づくり

- 企業と人材を支えていくものとして、グローバル化がこれからどんどん進んでいく。そういう意味では、人材の育成として、異文化共生に関するグローバル教育への注力が今後必要になってくるのではないか。
- 親教育に力を入れ、家庭・学校・地域で強化する富山発のモラルシンキング教育というものがあってもよいのではないか。
- 14歳の挑戦のような取組みを、例えば高校生を対象に行うなどし、働くということはどういうことを教えることが大切
- ものづくり県として、人手不足の解決のため、（高校再編にあたっては）工業系県立高校の定数の維持と県内大学の工業系学部の富山県枠を拡大すべきである。
- 特に女性が県外に出ていく傾向があるので、女性が希望するような職場をいかにたくさんつくるかが大事
- 女性にもものづくりに関心を持ってもらえるような教育を行ってほしい。
- とやま科学オリンピックなどの取組みを通じて、理系女子の数を増やしていけば、女性の活躍の場が広がるのではないか。
- 人手不足のため、外国人が増えてくると思うので、その受入れのための素地として、県民の意識を変える必要があるのではないか。
- 婦人会ばかりでなく、自治会や消防団など地域コミュニティの人材がいなくなっている現状をどうするのが課題である。